

ザンビア自然農法開発計画

畑がひと休み するとき

農閑期の農村コミュニティの暮らし



畑がひと休みするとき

農閑期の農村コミュニティの暮らし

多くの人にとって、7月から9月は農作業の暦の中では比較的静かな時期に見えるかもしれませんが、畑は、種まきや作物の生育期ほど忙しくはなく、次の農作期を告げる最初の雨が降り始めるまでには、まだ数か月あります。

しかし、農家の人々にとって、この時期は決して何もない静かな期間ではありません。

地域では「農閑期」と呼ばれるこの数か月は、一つの農作期から次の農作期へと移る大切な時期です。農家の人々は、収穫の最終段階として、作物を集め、袋詰めし、運び、販売する一方で、次のシーズンに向けて土地や家庭、必要な資源の準備も同時に進めています。

またこの時期は、何か月にもわたる努力の成果が、農場の外へと広がり始める時期でもあります。収穫された作物は市場や取引所へ運ばれ、農村地域の中でお金動き始めます。そして農家の人々にとっては、家族の生活に必要なものを整え、生計を支えるための投資をし、将来の計画を立てる機会となります。

一見すると静かに見える畑の背後では、実際には人々の動き、商い、次の季節への準備、そして活発なコミュニティの営みに満ちた季節が続いているのです。

人と物が動き、機会が生まれる時期



収穫物が市場へと運ばれていく。

収穫物が畑から市場へと運ばれ始めると、農村の道路は一気に活気づきます。

作物の生育期には比較的静かだった道路も、この時期になると人や物が行き交う活発な道へと変わります。トラック、バス、オートバイ、自転車など、さまざまな交通手段によって、農家や農業従事者、家族、そして何よりも、何か月にもわたる労働と投資の成果である農作物が運ばれていきます。

農家にとって、この時期は、自分たちの働きの価値が目に見える形となって現れる時でもあります。



農家と作物を運ぶ輸送。

収穫された農産物は袋に詰められ、車両に積み込まれ、農場や農村地域から地元の市場、買い付け所、さらに大きな取引拠点へと運ばれます。農家自身が農産物と一緒に移動することもあり、作物を販売したり、生活に必要な物資を購入したり、これからの数か月の計画を立てたりするために、何度も往復することもあります。

こうした人や物の活発な移動は、農場の外にもさまざまな機会を生み出します。

運送業者への需要が高まり、整備工場では車両の修理や点検が増えます。また、ガソリンスタンド、市場の商人、食べ物販売する人々、店主、その他の小規模事業者も、人とお金の流れが活発になることで恩恵を受けます。オートバイや自転車による運送を仕事とする人々にはより多くの利用客が生まれ、トラックの所有者や運転手にも、農村地域から商業の中心地へ農産物を運ぶ仕事が増えていきます。

このように、収穫は単なる農業上の出来事にとどまりません。地域社会全体を動かす経済的な出来事にもなるのです。

収穫による収入が地域社会に入るとき

チョマのような小さな町や、農村部の商店、取引拠点では、収穫期になると人々の活動が目に見えて活発になることがあります。



地域社会の中でお金循環する。

市場はにぎわい、商店にはより多くの客が訪れます。露店などの小規模な商売をする人々にも、商品を販売する機会が増えていきます。農作物を無事に販売した農家にとっては、一年の大半を畑に注ぎ込んできた努力や資金が、ようやく現金収入となって戻ってくる時期でもあります。

農家にとって、この収入にはさまざまな使い道があります。

食料や衣類、生活必需品を購入する人もいれば、学校の授業料やその他の教育費を支払ったり、借金を返済したり、家を修理したり、農機具を購入したり、家畜に投資したりする人もいます。また、種や道具、その他の農業資材を購入し、次の農作期に直接再投資する農家もいます。

また、収穫による収入を、新たな収入源をつくる機会として活用する人もいます。小さな商売を始めたり、家畜を増やしたり、野菜栽培に取り組んだり、次の大きな収穫までの間にも収入を得られる別の活動に投資したりすることがあります。

こうした一つひとつの買い物が、地域経済の中でお金を循環させていきます。

農家が農産物を商人に売る。商人が運送業者に代金を支払う。運送業者は燃料を購入し、車両の整備のために整備士に代金を支払うこともあります。整備士は地元の商店で商品を購入し、店主は仕入先からさらに商品を仕入れます。

一度の収穫が、地域全体に広がる経済活動の連鎖を生み出す。

実りの喜び——そして責任の季節

収穫の時期には、地域全体に希望に満ちた雰囲気を感じられることがあります。



農村の移動にはさまざまな形がある。

農産物を満載したトラック、にぎわう市場、商品が並ぶ商店の棚、そして家族のための品々を持って家路につく農家の姿は、地域の経済が活発に動いていることを目に見える形で示しています。農家にとって、無事に収穫を終え、農産物を販売できることは、何か月にもわたる不安や重労働、そして待ち続けた時間の末に得られる、大きな達成感をもたらします。

しかし、収穫によって得た収入は、同時に大切な判断を求めるものでもあります。

多くの農家にとって、この時期に得た収入で、その後何か月にもわたって家族の暮らしを支えていかなければなりません。その収入をどのように使い、どのくらい蓄え、何に再投資するかという判断は、家族が困難に対応していく力や、次の農作期の成功に大きな影響を与えます。

そのため、この「農閑期」は、単に農作物を販売する時期ではなく、これから先を見据えて計画を立てる大切な時期でもあります。

収穫は一つのサイクルの終わりを意味します。しかし同時に、次のサイクルの始まりでもあるのです。

次の農作期に向けた準備

農家が前のシーズンの実りを販売している一方で、すでに次の農作期に向けた準備も始まっています。

雨季が始まるまでの数か月は、畑を整え、農具を修理し、家畜の世話や管理を整え、次のシーズンに何を植えるのかを考える大切な時期です。

多くの小規模農家にとって、手鋤のような昔ながらの農具は、今でも欠かすことのできないものです。また、家畜の力を農作業に利用している地域では、牛も耕作のための土地を準備するうえで重要な役割を果たしています。

NADPZでは、牛はプロジェクトの中で畜産プログラムの重要な一部となっています。家畜は将来への投資であると同時に、農業生産において実質的な役割も担っています。その一つが、プロジェクトの実証農場で畑を耕す作業を支えることです。

このように家畜と作物生産を組み合わせることは、持続可能な農業の大切な原則を表しています。つまり、農業を構成するさまざまな要素が、互いに支え合うことができるという考え方です。

家畜は農作業を助けるとともに、新たな生計手段を生み出すことができます。一方、作物の栽培やその他の農業活動は、家庭の食料を安定して確保し、収入を得ることにもつながります。

この「農閑期」は、農家にとって、終わったばかりの収穫だけを見るのではなく、今ある資源をどのように活用すれば次のシーズンにつなげていけるのかを考える、貴重な時間でもあるのです。

農場を越えて

コミュニティ、成長、そしてもてなしの季節

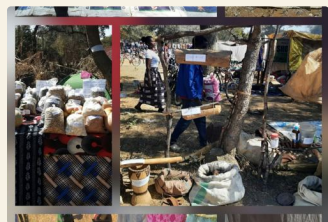
農場を越えて：コミュニティの季節

農業の一年のサイクルは、農村地域の社会生活とも深く結びついています。

特に忙しい農作業の時期を終えた農家の人々にとって、この「農閑期」は、地域の行事や集会、宗教活動、その他のさまざまな集まりに参加する機会が増える時期でもあります。

7月と8月は、政府機関や地域団体、その他の組織が主催する農業ショーや地域イベントが特に活発に行われる時期でもあります。こうした機会を通して、農家の人々は互いに会い、経験を分かち合い、新しい取り組みについて学び、地域社会にとって農業がいかに大切であるかを共に確認し、祝うことができます。

NADPZでも、近年は隔年で開催している「自然農法ショー」が、農家や地域の人々が一堂に集まる同様の機会となっています。



こうしたイベントは農業生産の紹介にとどまらない。

こうしたイベントの目的は、単に農業生産の成果を紹介することだけではなく、知識を分かち合い、人と人とのつながりを深め、新しい考え方に触れる場を生み出しています。

教会の活動、女性グループ、地域の集会、その他のさまざまな地域活動も、この時期の暮らしの大切な一部となっています。

こうした活動は、農村コミュニティが畑や収穫だけによって成り立っているのではなく、人と人とのつながり、知識、協力、そして共に経験を分かち合うことによって築かれていることを、私たちに改めて教えてくれます。

作物以上のものを育てる

農閑期は、農家が食料と収入の新たな源を探る機会にもなります。

野菜づくりはその一例です。

主な農作期に大きく依存する作物とは異なり、野菜づくりは新鮮な食料を家庭にもたらすと同時に、収入を生み出す機会もつくります。比較的小さな菜園であっても、家庭の栄養に貢献し、地元で販売できる作物を生み出すことができます。

NADPZの事業拠点では、自然農法による菜園が、生産的な土地が同時に複数の役割を果たせることを示しています。



菜園の手入れの様子。



事業拠点のそばに広がる野菜畑。

この菜園は、農家が自然農法の技術が実際に用いられている様子を見ることができる実践的な実証の場です。また、菜園の世話をする実証農家にとっては、収入を得る機会にもなっています。

同時に、この野菜はNADPZのロッジと宿泊客の食事にも役立てられています。

ここには、農業がもてなしを支え、もてなしが経済活動を生み、そして事業拠点が農家にとって実践的な学びの場となる——そんなシンプルで力強い循環が生まれています。

この菜園は、農業が単一の作物や単一の収入源に限られる必要はないことを示しています。

知識と計画、そして手元にある資源を上手に活かすことで、農家は食料の安定確保、収入創出、そしてより高いレジリエンスを支える複数の活動を築いていくことができます。

NADPZにおけるおもてなしとコミュニティ

NADPZの宿泊施設（ロッジ）は、農業とより広い地域社会を結ぶ、もう一つの役割を果たしています。

農閑期には、このロッジが、地域を訪れる人々やコミュニティグループ、さまざまな団体が集う場所となることがあります。



ロッジに集うコミュニティグループ。食事が農産物と人をつなぐ。

最近では、地域の行事に参加するため南部州を訪れていた聖公会マザーズ・ユニオンのメンバーをロッジに迎えました。宿泊から食事まで、ロッジは一行に温かく快適な環境を提供し、このプロジェクトの施設が農業だけでなく、より幅広い地域活動を支えることができることを示しました。

ロッジで提供される朝食のような、一見何気ないものにも、このプロジェクトのさまざまな活動が互いにつながっていることが表れています。

農業活動を通して育てられた農産物を宿泊客の食事に活用することができる一方、ロッジは食材やサービス、雇用への需要を生み出します。そして、こうした活動から得られる収入は、プロジェクト全体の運営と持続可能性を支えることにもつながります。

これは、持続可能な発展とは、一つの活動だけが単独で成り立つものではないということを改めて教えてくれます。

農場、ロッジ、家畜、菜園、農家の人々、そして周辺の地域社会——そのすべてが、より大きな一つの仕組みの中でつながっているのです。

振り返り、立て直し、計画する時期

「農閑期」は、これまでを振り返るための貴重な時期でもあります。

農家の人々は、前のシーズンを振り返り、何がうまくいったのか、何を違うやり方でできたのか、そして、どのような学びを次の農作期に活かすことができるのかを考えることができます。

どの作物がよく育ったのか？ 生産に影響を与えた課題は何だったのか？ 資源をどのように活用したのか？ 次の雨季が始まるまでに、何を改善できるのか？

これらは単純な問いに見えるかもしれませんが、しかし、より強く、困難にも対応できる農業の仕組みを築いていくうえで、とても大切な問いです。

NADPZのようなプログラムに参加している農家にとって、この「農閑期」は、これまでの経験を振り返り、知識を深め、次のシーズンの実証活動やさまざまな取り組みに備える機会にもなります。

農業は、絶え間なく学び続ける営みです。シーズンを迎えるたびに、新たな情報が得られ、新たな課題に会い、そして、より良くしていくための新たな機会が生まれるのです。

暮らしそのものとしての農業

農業の一年のサイクルは、単に種をまき、収穫するだけのものではありません。

それは、食料生産、家計収入、家畜、運送、商取引、事業、コミュニティ、そして環境を守り育てることが互いに深く結びついていた、一つの暮らしのあり方です。

作物の生育期に畑で起きていることは、やがて道路や市場、農村の商店、そして一つひとつの家庭の暮らしにも影響を与えています。

豊かな収穫は、家族に食料をもたらし、農家に収入をもたらし、運送業者に仕事を生み、商店には客を呼び、整備士には仕事をもちます。また、教育費の支払いを助け、家庭の生活を支え、次の作物を育てるための資金となり、新たな事業へ投資する機会を生み出すこともできます。

そして、やがて畑が静かな時期を迎えても、農家の仕事が止まるわけではありません。

農家の人々は、農産物を販売し、次の計画を立て、農具や設備を修理し、将来のために投資し、地域の活動に参加し、次の農作期を始める雨に備えています。

NADPZでは、農家の人々が、一度の収穫だけに頼るのではなく、より高い自立性、困難に対応する力、そして持続可能な生計を築いていけるよう支援することを大切にしています。そのために、知識、実践的な実証活動、家畜、農業資材、そして必要なインフラを利用できる機会を提供しています。

農業とは、単に作物を生産することではありません。

それは、人々の暮らしを築くことです。それは、家族を支え、より強くすることです。それは、困難にも対応できる地域社会を築くことです。そして最終的には、農家とその家族、そして彼らの暮らしを支える環境にとって、より良い未来をつくることなのです。

ですから、畑がひと休みする時期を迎えても、農村コミュニティが休んでいるわけではありません。ただ、その活動の中心が移っているのです——育ててきたものを収穫することから、次にやって来るものへの準備へと。